

# 草津市認知症施策アクション・プラン第2期計画の実績・評価について



たび丸とロバ隊長



# 草津市認知症施策アクションプラン

## 第2期計画の実績・評価

第2期計画（平成30年度～令和2年度）の認知症施策の取組評価を行い、良かった点、改善を要する点を押さえ、第3期計画において重点的に取り組むべき施策の検討材料とします。


そのため、令和元年度までの実施事業について次頁以降で各施策（事業）ごとに振り返ります。（平成30年度実施事業評価については、令和元年度第1回会議（7月16日（火）開催）の資料および議事概要にて御確認をお願いします。




# 草津市認知症施策アクションプラン 第2期計画の実績・評価（R2.3末時点）

【各施策（事業）の到達目標および実績】


— : 達成      — : 未達

プランの基本目標	施策（事業）	到達目標	実績
<p>1. 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進</p> <p></p>	<p>(1) 認知症サポーター養成講座の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター数が <u>12,000人以上</u></li> <li>・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、「認知症サポーター養成講座を受講したことがある」または「名前は聞いたことがある」と回答する人が <u>50%以上</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症サポーター数：<u>15,311人</u></li> <li>・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、「認知症サポーター養成講座を受講したことがある」または「名前は聞いたことがある」と回答した人：<u>27.2%</u></li> </ul>
	<p>(2) 認知症キャラバン・メイトの養成・支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動できる認知症キャラバン・メイト数が、<u>一般のキャラバン・メイト35名、専門職のキャラバン・メイト100名</u></li> <li>・交流会の参加者アンケートで、「他市のキャラバン・メイトと交流できた」と回答する人が <u>80%以上</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動できる認知症キャラバン・メイト数が、<u>一般のキャラバン・メイト26名、専門職のキャラバン・メイト76名</u></li> <li>・H30：参加者アンケートで「他市のキャラバン・メイトと交流できた」と回答した人：<u>93%</u></li> <li>R1：新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、未開催(R2.3)</li> </ul>

— : 達成    — : 未達

プランの基本目標	施策（事業）	到達目標	実績
<p>1. 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進</p> <p></p>	<p>(3) 認知症市民講座の開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者のアンケートで、「認知症について理解できた」「少し理解できた」と回答する人が<u>90%以上</u></li> <li>・同アンケートで「認知症の人がおられたら、声かけや見守り等、できる範囲で協力したい」と回答する人が<u>80%以上</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者のアンケートで、「認知症について理解できた」「少し理解できた」と回答する人が H30 : <u>79%</u>、R1 : <u>77%</u></li> <li>・同アンケートで「認知症の人がおられたら、声かけや見守り等、できる範囲で協力したい」と回答する人が H30 : <u>54%</u>（認知症の“人の心”－大切な人の心を理解できるようにしたい－） R1 : <u>55%</u>（落語で学ぶ認知症）</li> </ul>


— : 達成    — : 未達

プランの 基本目標	施策（事業）	到達目標	実績
<p>2. 認知症 の人を含む 高齢者にや さしい地域 づくりの推 進</p> 	(1) 認知症 の人にやさし いお店の推進	・ 認知症の人にやさしいお 店の登録数： <u>60店舗</u>	・ 認知症の人にやさしい お店の登録数： <u>46店舗</u>
	(2) 徘徊 SOSネット ワークの拡充	・ 徘徊SOSネットワーク事 前登録者数： <u>130人</u> ・ 徘徊SOSネットワーク加 盟事業所数： <u>180団体</u> ・ メール配信サービス（徘 徊SOS）の登録者数： <u>2,200人</u>	・ 徘徊SOSネットワーク 事前登録者数： <u>127人</u> ・ 徘徊SOSネットワーク 加盟事業所数： <u>140団体</u> ・ メール配信サービス （徘徊SOS）の登録者 数： <u>3,818人</u>


— : 達成    — : 未達

プランの基本目標	施策（事業）	到達目標	実績
<p>2. 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進</p> <p><b>重点目標</b></p>	<p>（3）地域安心声かけ訓練の実施</p>	<p>・実施後のアンケートで「地域として何かできることがあれば協力したい」と回答する人が<u>80%以上</u></p>	<p>H30 :            ・志津学区 : <u>84%</u>            R1 :            ・笠縫学区 : <u>63%</u>            ・老上西学区 : <u>81%</u></p>
	<p>（4）地域の関係者が連携しやすい関係づくり</p>	<p>・地域課題を共有し、解決に向けた顔の見える関係ができる。</p> <p>・<u>地域包括支援センター</u>において、民生委員からの相談件数が増える。</p> <p>・<u>全ての小学校区</u>で関係者が集まる場（学区の医療福祉を考える会議を含む）ができる。</p>	<p>・民生委員児童委員協議会と地域包括支援センターの交流会を開催して地域課題を共有し、解決に向けた顔の見える関係ができた。</p> <p>・ H29      565件            H30      530件            R1        584件</p> <p>・ <u>計12小学校区</u>で学区の医療福祉を考える会議を開催した。</p>

プランの基本目標	施策（事業）	到達目標	実績
<p>2. 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進</p> <p><b>重点目標</b></p>	<p>(5) 地域見守り体制の検討</p>	<p>・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、「認知症があっても住み慣れた地域で安心して生活をするために、①「日ごろからの声かけや挨拶」が<u>80%以上</u>、②「認知症であることを話しておくこと」の回答が<u>50%以上</u>。</p> <p>・協議体を<u>全小学校区</u>で開催する。</p>	<p>・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、「認知症があっても住み慣れた地域で安心して生活をするために、①「日ごろからの声かけや挨拶」が<u>70.9%</u>、②「認知症であることを話しておくこと」の回答が<u>46.1%</u></p> <p>・協議体を<u>計12小学校区</u>で開催</p>

プランの基本目標	施策（事業）	到達目標	実績
<p>2. 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進</p> <p> 重点目標</p>	<p>（6）地域密着型サービス事業所と地域の交流推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症なんでも相談所の登録数の増加（H28：17か所）</li> <li>・ 認知症サポーター養成講座や地域安心声かけ訓練を実施する地域密着型事業所が増加する。（H28：7か所）</li> <li>・ 地域密着型サービス事業所の利用者が地域と交流の機会を持つことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症なんでも相談所の登録数：<u>18か所</u></li> <li>・ 認知症サポーター養成講座や地域安心声かけ訓練を実施する地域密着型事業所：<u>12か所</u></li> <li>・ 地域密着型サービス事業所と地域が交流する機会を持つことができたが、利用者と地域の交流までは至らなかった。</li> </ul>



プランの基本目標	施策（事業）	到達目標	実績
<p>2. 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進</p> <p></p>	<p>(7) 見守り体制を推進する人材の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動する脳活教室リーダーが<u>年間50名以上</u></li> <li>・生活支援サポーター養成講座実施後のアンケートで「地域で困っている高齢者がいたら、自分にできる範囲でお手伝いしたい」と回答する人が<u>75%以上</u></li> <li>・生活支援サポーターが実際の活動につながる仕組みができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動する脳活教室リーダーが<u>年間53名</u></li> <li>・生活支援サポーター養成講座実施後のアンケートで「地域で困っている高齢者がいたら、自分にできる範囲でお手伝いしたい」と回答する人が H30 : <u>70%</u> R1 : <u>54.5%</u></li> <li>・講座修了者がシルバー人材センターで活動されるなど、実際の活動につながる仕組みができた。</li> </ul>

プランの基本目標	施策（事業）	到達目標	実績
<p>3. 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供</p>	<p>（1）認知症の発症予防の啓発</p>	<p>・啓発を通じて、市民が認知症と生活習慣の関連や認知症と糖尿病との関連、予防方法を知ることができる。</p>	<p>・ <b>糖尿病を含む生活習慣病予防のための健康講座や運動教室、生活習慣に関する啓発イベントを行い、糖尿病や生活習慣病の発症予防のための適切な食生活や運動習慣のきっかけとなり認知症の予防について知ることができた。</b></p>
	<p>（2）地域包括支援センター等に相談がつながる仕組みづくり</p>	<p>・ <u>関係機関からの相談件数が増加する。</u></p> <p>・ <u>認知症簡易チェックシステム利用者のチェック結果がレベル1の人が増える。</u></p>	<p>・ 医療機関：H29 1,547件 H30 1,576件 <b>R1 1,821件</b></p> <p>・ 本人向けチェック結果のレベル1の割合 H30：69.9%、R1：<b>68.5%</b> (参考H29：79.6%)</p>

— : 達成    — : 未達

プランの基本目標	施策（事業）	到達目標	実績
3. 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供	(3) 医療機関等の職員向け研修の実施	・研修の参加者アンケートで、「今後に活かせる内容であった」と回答する人が <u>90%以上</u>	・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために研修会未開催。(R2.3)
	(4) 介護保険サービス未利用者が適時・適切にサービスにつながる仕組みの検討	・検討結果を第3期の施策へ反映する。	・高齢者フレイル予防事業の実施と併せて、介護保険サービス未利用者の状態把握について検討する。

プランの基本目標	施策（事業）	到達目標	実績
<p>3. 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供</p>	<p>(5) 認知症初期集中支援チームの効果的な運用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・介護サービス等につながり、支援を引き継いだ人の割合が<u>60%以上</u></li> <li>・個別の支援を通じて、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築する上での地域課題を抽出し、関係機関へ発信できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療・介護サービス等につながり、支援を引き継いだ人の割合が H30 : <b>89%</b> R1 : <b>63%</b></li> <li>・認知症地域推進員会議（R2.2）にて地域包括支援センター職員と事例共有を行い、関係機関への発信ができた。</li> </ul>
	<p>(6) 医療・介護関係者等の連携の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア個別会議において多職種連携によるチームケアの検討ができる。</li> <li>・「多職種事例検討会」を開催し、関係者の互いの役割の理解を深めることができる。</li> <li>・「学区の医療福祉を考える会議」を<u>全小学校区</u>で開催できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア個別会議において、各職種からの専門的な意見を聴取することにより、連携強化する点の抽出に努めた。</li> <li>・R1.10に多職種連携交流会を開催し、関係者の価値観や考え方を知り理解を深めた。</li> <li>・「学区の医療福祉を考える会議」を計<u>12小学校区</u>で開催。</li> </ul>

— : 達成      — : 未達

プランの基本目標	施策（事業）	到達目標	実績
<p>3. 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供</p>	<p>(7) 認知症の人にかかるケアマネジメントとサービスの質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症に関する研修会のアンケートにおいて適切なプラン作成またはサービスの在り方に必要な事項が分かったと回答する人が<u>80%以上</u></li> <li>・ 地域ケア個別会議のアンケートにて「認知症ケアマネジメントに必要な事項が分かった」と回答する人が<u>80%以上</u></li> <li>・ ケアプラン点検の年間実施回数<u>60回</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ H30 : <b>85%</b> (H30.9.18開催「手をつなごう～認知症の人を中心にした支援～」)</li> <li>・ R1 : 未開催</li> <li>・ アンケートは未実施であるが、事例提供者からはケアマネジメントについて参考になったという声をいただいた。</li> <li>・ ケアプラン点検の年間実施回数H30:<b>57回</b>、R1 : <b>61回</b></li> </ul>
	<p>(8) 認知症高齢者への支給限度額上乗せサービスの実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上乗せサービスを必要とする人に継続してサービスを提供できるよう、<u>制度を継続する</u>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 居宅介護サービス費の支給限度額の上乗せサービスを実施した。</li> <li>・ H30利用者数 : 延べ1,878人 (H30.4～12審査分)</li> <li>・ R1利用者数 : 延べ2,048人 (R1.4～12審査分)</li> </ul>

プランの基本目標	施策（事業）	到達目標	実績
<p><b>4. 若年性認知症施策の強化</b></p>	<p>（1）若年性認知症の人や家族への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年認知症支援マニュアルを活用した<u>支援を継続する。</u></li> <li>・若年性認知症の<u>現状を把握し、支援策を検討する。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県の実施事業や若年認知症支援マニュアルを活用し、<u>支援を継続した。</u></li> <li>・地域包括支援センターへの聞き取りや事業を通じて<u>現状を把握し、支援策を検討した。</u></li> </ul>

プランの基本目標	施策（事業）	到達目標	実績
5. 認知症の人の介護者への支援	（1）介護者の負担軽減のための相談窓口の周知・啓発	・ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、（家族や友人・知人以外で）何かあったときに相談する相手がいる人が <u>70%以上</u>	・ 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、（家族や友人・知人以外で）何かあったときに相談する相手がいる人が <u>62.5%</u>
	（2）「認知症の人と家族の会」のPR	・ <u>PRを継続実施する。</u>	・ 認知症の人と家族の会が実施している集いの場や電話相談等に気軽に参加できるよう、窓口や講座、HP等で <u>認知症の人と家族の会をPRした。</u>

プランの基本目標	施策（事業）	到達目標	実績
5. 認知症の人の介護者への支援	(3) 家族介護教室の開催	・教室参加後のアンケートで「今後の介護に活かせると感じた」と回答する人が <u>90%以上</u>	・教室参加後のアンケートで「今後の介護に活かせると感じた」と回答する人が <u>97% (H30)</u>
	(4) 認知症高齢者等徘徊探索システムの普及・推進	・登録者数が <u>50名</u> に増加する。	・登録者数： <u>54名</u> (R2.3末時点／新規登録者数15名)
	(5) 本人・介護者が集える居場所の支援	・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、「認知症があっても住み慣れた地域で安心して生活をするために大切なものとして、“いきいき百歳体操やサロン、老人クラブ、認知症カフェなどの居場所づくり”」と回答する人の割合が40%以上。	・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査において、「認知症があっても住み慣れた地域で安心して生活をするために大切なものとして、“いきいき百歳体操やサロン、老人クラブ、認知症カフェなどの居場所づくり”」と回答する人の割合が <u>33.8%</u> 。



プランの基本目標	施策（事業）	到達目標	実績
<p><b>5. 認知症の人の介護者への支援</b></p>	<p>(6) 地域に根ざした介護者への支援の検討</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア個別会議において、認知症の人や家族の声を反映した支援の在り方が検討できる。</li> <li>・地域に根差した介護者への支援を検討し、結果を第3期の施策へ反映する。</li> <li>・学区の医療福祉を考える会議で、認知症高齢者の介護者に関して話題提供できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケア会議において、多職種が参加することで認知症の人やその家族の支援を多角的な視点で検討した。</li> <li>・介護者からの意見により、<b>認知症高齢者等個人賠償責任保険の導入を検討した。</b></li> <li>・<b>志津学区・玉川学区・常盤学区（H30）、笠縫学区・老上西学区（R1）の医療福祉を考える会議で、認知症の事例や話題提供を行った。</b></li> </ul>

— : 達成    — : 未達

プランの 基本目標	施策（事業）	到達目標	実績
6. 権利擁護の推進	(1) 成年後見制度の利用促進	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 介護予防・日常生活圏域二エーズ調査において成年後見制度を「よく知っている」と「まあ知っている」の合計が<u>60%以上</u></li><li>・ 委託先への成年後見制度の相談件数が<u>増加する</u>。(H28 : 73件)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 介護予防・日常生活圏域二エーズ調査において成年後見制度を「よく知っている」と「まあ知っている」の合計が<u>50.6%</u></li><li>・ 委託先（成年後見センターもだま）への相談件数 H30 : <u>101件</u>、R1 : <u>64件</u></li></ul>
	(2) 成年後見制度の利用支援	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 制度が適切に利用される。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ <b>老人福祉法第32条に基づき、市長申立手続きを行い、成年後見制度の利用支援のため、申立費用および成年後見人等の報酬にかかる補助金を交付した。</b></li></ul>

プランの基本目標	施策（事業）	到達目標	実績
6. 権利擁護の推進	（3）高齢者虐待防止体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関等が虐待のサインに気づき、連携して支援することができる。</li> <li>・高齢者虐待防止に向けた体制づくりを推進することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待事例への対応や支援状況の共有、対応能力向上のため、事例集を関係機関に配布し、高齢者虐待の防止、早期発見・早期対応の統一を図るため、高齢者虐待対応マニュアルを改訂した。</li> <li>・高齢者虐待防止の支援や体制づくりを検討するため、R1年度の高齢者虐待対応状況について集計、取りまとめた。</li> </ul>
	（4）権利擁護に関する研修会およびケース会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会後のアンケートにおいて、「権利擁護について対応のポイントが理解できた」と回答する人が<u>80%以上</u></li> <li>・権利擁護ケース会議で<u>適切な支援の検討</u>ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会後のアンケートにおいて、「権利擁護について対応のポイントが理解できた」と回答する人が<u>96%</u></li> <li>・権利擁護ケース会議で<u>適切な支援の検討</u>を行った。 (H30 : 37回、R1 : 22回)</li> </ul>

— : 達成      — : 未達

プランの基本目標	施策（事業）	到達目標	実績
6. 権利擁護の推進	（5）高齢者虐待処遇検討会議の開催	・虐待対応計画の実施状況を評価し個々の目標が達成できる。	・高齢者虐待に関する事例について、虐待の有無や緊急性の判断、今後の支援方針や支援内容の検討を行った。 H30：定例6回、随時7回 R1：定例5回、随時3回
	（6）介護サービス事業所等での身体拘束ゼロおよび高齢者虐待防止への取り組み	・年間実地指導件数： <u>15件</u>  ・年間集団指導回数： <u>1回</u>	・年間実地指導件数 H30： <u>9件</u> 、R1： <u>32件</u>  ・年間集団指導回数 H30： <u>1回</u> 、R1： <u>1回</u>
	（7）高齢者虐待防止の普及・啓発	・市民の高齢者虐待防止に関する知識を <u>高めることができる</u> 。  ・研修会後のアンケートにて、「高齢者の虐待防止について対応のポイントが理解できた」と回答する人が <u>80%以上</u>	・高齢者虐待防止、通報窓口についてHPで啓発し、 <u>知識を高めるよう努めた</u> 。  ・研修会後のアンケートにて、「高齢者の虐待防止について対応のポイントが理解できた」と回答する人が <u>98%</u>